

Program

グスタフ・ホルスト(1874-1934) 惑星 Op.32 Gustav Theodore Holst *The Planets*

海王星／神秘	<i>Neptune, the Mystic</i>
天王星／魔術	<i>Uranus, the Magician</i>
土星／古い	<i>Saturn, the Bringer of Old Age</i>
木星／喜び	<i>Jupiter, the Bringer of Jollity</i>
水星／翼	<i>Mercury, the Winged Messenger</i>
金星／平和	<i>Venus, the Bringer of Peace</i>
火星／戦い	<i>Mars, the Bringer of War</i>

上演時間は約 80 分、途中休憩はございません。

Program Note～惑星たちの新たな物語

ホルストは、同時代のシェーンベルクの作品を聴いて新しい作品への意欲が掻き立てられ、1914年から16年にかけて、この【組曲 惑星】を作曲しました。

オルガンのために書かれた海王星を除き、他の6曲はピアノとして作曲され、のちに『7つの管弦楽曲』へと展開していきます。30年近くにわたりセント・ポール女学院で音楽の教鞭を取った際に関わった同僚や生徒たちの手助けがあってなされたと伝えられています。

ホルストの示した演奏の曲順は、火星、金星、水星、木星、土星、天王星、海王星で、太陽に近い惑星から水星、金星、火星、・・・という実際の並びとは違うものになっています。これはホルストが占星術の影響を受けていたからだと言われています。

ホルストは「現実の世界では、終わりは決して幸せなものではないから」と、「木星」で終わらせる“ハッピーエンド”を嫌ったようです。しかし、現代ではホルストが望まなかったと思われる「木星」だけの演奏もされています。作曲から110年たった今、「幸せな」終わりの『惑星』でもいいのではないかとも思います。

1曲1曲を改めて聴きなおしますと、地球から肉眼で観ることのできる惑星たちは、リアルでドラマティックな描写が多く、離れた惑星は抽象的で神秘的な表現が多いことに気づきます。

そうならば、曲順を変えることで『惑星』の新たな輝きも見えてくるのではないかと、と不敵にも考えたのです。そして、もっとドラマティックな終わり方でもいいのではないかと。すると真逆に演奏することで地球に近い地球型惑星と言われる惑星たちで終わり【惑星たちの新たな物語】が描けるのではないかと、考えました。

この新編曲版『惑星』をホルスト没後90年にお届けします。

石原佳世&岡崎章ピアノデュオ

石原佳世&岡崎章ピアノデュオ



学生時代からそれぞれソリストとして学び“ピアノの詩人ショパン”への憧れを胸に、ポーランドを代表する“ショパン弾き”であったハリーナ・チェルニー＝ステファンスカ女史のもとで研鑽を積む。

2人のピアノデュオによる初共演は、W.ルトスワフスキ・フィルハーモニーホール(ポーランド・ヴロツワフ市)で Gazeta Dolnośląska 紙を始め多くの評論家たちに絶賛された。これが互いのピアノ・デュオの世界観を築ききっかけとなり現在に至っている。

石原佳世においては、第5回ヨーロッパ・ショパン・コンクール(ドイツ・ダルムシュタット)の優勝など数々のコンクールに入賞。また岐阜県民栄誉賞、岐阜県芸術文化奨励賞などを受賞したことを特筆したい。

岡崎章によるピアノ連弾、2台ピアノへのトランスクリプション作品による響きのアプローチは余すところなく繰り広げており、各地でのコンサートを始めサラマンカホール主催の【ピアノデュオコンサート・手紙シリーズ】でもコトバとの融合を追求し好評を博している。

YouTube、オンライン Live コンサート、岐阜放送【美の精華(ぎふちゃん)】の出演をはじめ、ピアノ、ピアノアンサンブル奏法におけるレクチャー、また、音楽事務所(株)VOCE の協力アーティストとしても精力的に活動している。

後藤卓也



劇団芝居屋かいとうらんま座長。俳優、脚本家、演出家。

旗揚げ40周年を迎える劇団を率い、現在、岐阜・東京を中心に演劇活動のほか、映像作品の制作など精力的に活動している。

この「手紙シリーズ」では、2020年「ウィーンからの手紙」、2022年「スペインからの手紙」で語り手を演じた。サラマンカホールのコンサートシリーズ「バーへようこそ」では、2021年「オペラ座地下のアーティストバー」、2023年「ジャズバーへようこそ」でバーのマスター役で出演。また2021年「宮澤賢治～春と修羅」では語り手を演じた。シリーズ賢治の次回作「セロ弾きのゴーシュ」(2025. 4/12)でも朗読を担当する。

また、サラマンカ少年少女合唱団 CORO Junior ミュージカルの台本演出を2021年から担当している。

台本・演出 金子根古 サラマンカホールスタッフ